

第 1 回青森県生涯学習審議会会議録

日時	平成26年10月30日(木) 14:00~16:00
場所	青森県警察本部 6階 教育委員会室
出席者	<p>《 委員 》敬称略 14名 (欠席1名)</p> <p>荒川 由美子 浮木 隆 上野 修子 太田 博之 岡 詩子 工藤 清子 駒井 昭雄 鹿内 葵 澁谷 尚子 春藤 千秋 出崎 真里 西澤 ナミ子 原 英輔 増田 由美子 (三上 亨)</p> <p>《青森県教育長》 中村 充</p> <p>《 事務局 》 5名</p> <p>中野 聖子 (生涯学習課長) 渡部 靖之 (学校地域連携推進監) 森田 勝博 (企画振興グループマネージャー) 他2名</p> <p>《 その他 》 3名</p> <p>葛西 浩一 (学校教育課 学校教育企画監) 大瀬 雅生 (総合学校教育センター 教育活動支援課長) 他1名</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 案 件 (1) 青森県の生涯学習の現状について (2) 審議テーマについて (3) 意見交換 (4) その他</p> <p>4 閉 会</p>
配付資料	<p>次第</p> <p>青森県生涯学習審議会委員名簿</p> <p>座席図</p> <p>資料1 青森県生涯学習審議会設置条例</p> <p>資料2 青森県の生涯学習・社会教育に係る施策について</p> <p>資料2-1 青森県教育振興基本計画</p> <p>資料2-2 平成26年度社会教育行政の方針と重点、施策・事業一覧</p> <p>資料3 青森県生涯学習審議会について</p> <p>資料4 第12期審議会のスケジュール(予定)</p>
	<p><参考資料></p> <p>第11期青森県生涯学習審議会報告</p> <p>プレ・シニア世代の社会参加活動に関する調査報告書</p>

(1) 会長、副会長の選出

会 長 太田 博之 (NPO法人テイクオフみさわ顧問)
副会長 三上 亨 (青森公立大学経営経済学部地域みらい学科講師)

(○事務局 ◇会長 ◆委員)

(2) 青森県の生涯学習の現状について

※資料2、資料2-1、資料2-2に基づき、事務局から説明

(3) 審議テーマについて

※資料3に基づき、事務局から説明

- ◆ 第11期でリーフレットを作成した。この中で、ぜひ一步を踏み出してほしいということを書いたので、次の段階として、一步を踏み出してもらうためにはどのような働きかけをしたらよいかということ話し合うのがひとつの考えである。
また、人口減少社会において、学校が減ったり、産業が衰退したりする中で、いかにして人口流出を減らすか、また、人口流入を増やすか、というようなことではどうか。現段階では、個人的な意見である。

(4) 意見交換

- ◇ 自己紹介と、テーマ設定につながる意見を述べてほしい。
- ◆ 校長会家庭科部会長をしている。家庭科は男女一緒に学ぶようになって20年になる。現在の家庭科の教科書には、現代社会の要素のすべてが入っており、少子高齢化、環境問題、食育、DVや虐待の問題まで詰まっている。人生をいかに生きるかというようなキャリア教育的視点も含んでいることから、家庭科教育の目指すものと、生涯学習の目指すものは重なる部分が多い。
最近では学ぶ意欲のある中高年を多く見かけることから、学びへの意識は高まっていると感じる。対して、若者の意識には問題があり、生きることに精いっぱい学びに対して余裕がない。このことから、世代間の交流が必要ではないかを感じる。少子化と生涯学習を絡め、テーマを考える上での一つの方向としたい。
- ◆ 住民参加の福祉型まちづくり等を行っている。社会教育行政の方針と重点と、我々が普段感じているようなことがマッチするポイントがあれば、それが審議テーマになるのではないか。
当市では町内会の加入率が50数%にとどまっており、コミュニティ形成や、コミュニティにおける生涯学習の役割などを審議テーマとしてはどうか。
- ◆ 私自身が社会参加活動をほとんどしていない状況であり、意見を述べることができるか不安である。PTA活動については、共働き世帯の増加が背景にあり活動が停滞している。PTA活動は生涯学習の一端であると考えていることから、現状を問題視している。

当市全域で地域密着型教育を進めているが、本校はキャリア教育の指定校にもなっている。

- ◆ 町のことが好きでたまらない仲間とともに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使ってさまざまな情報発信をしている。昨年は町内でフリーペーパーも発行した。他にも講師を招聘してセミナーを開いたり、町の人に楽しんでもらえるようなイベントの企画や運営をしている。

個人としては大学で心理学を専攻し、精神対話士の資格を生かして活動している。

審議テーマについては、健康長寿や短命県返上といったCMを目にし、健康長寿のためには身体の健康はもちろんのこと、精神的な健康も大事な要因だと考えている。このことから、これまでの経験を生かして地域の人との関わりの中で何かできることはないか考えたい。

- ◆ 小・中とPTA役員を経験させてもらった後、学校支援・放課後子ども教室コーディネーター、家庭教育支援事業に係わらせていただき、家庭相談士の立場で子育て講座等も行っている。

この会議における和やかな、安心できる雰囲気は生涯学習に係わり、活動されている方々の大きなパワーがあると感じた。

私の住む町は高齢化が著しく進んでいるが、北海道新幹線駅開業を控え、元気な高齢の方はもちろんのこと、町を活性化させようとする若い人たちの意気込みは大きく、意識も変わり始めている。

学校支援事業も若い世代の参加により、子どもたちの動きはあらゆる面で活発化してきていると感じることが多い。様々な学習の機会に臨み、たくさんの方々をつながりあって、成長させていただいていると思う。若い世代の方々、子どもたちにも社会参加活動の楽しさや喜びを実感してもらえよう、更に学ばせていただき、微力ながらそのきっかけ作りの手助けができればと思っている。

プレ・シニア世代の報告書を読ませてもらったが、ターゲットはやはりこの世代の方々ではないか。

- ◆ 市教育委員会社会教育課に所属している。公民館を担当し、20年近くなる。

当市は生涯学習と社会教育を分けて考えている。理由として、生涯学習は総合的なものであり、一人一人の生き方があり、それがつながって学び合い、地域づくりや町づくりになると考えれば、教育とは異なるであろうという考えからである。平成9年に課の名称が生涯学習課となったが、平成14年に社会教育課に戻した経緯がある。生涯学習は首長部局へ移した。

生涯学習の捉え方の第1段階として、学習することを目的とするのであれば学習支援をしなければならないであろうし、学習が手段であって目的がまちづくりであるならば、これは第2ステージということになる。

資料2では、生涯学習の捉え方として①～③の記載があるが、社会教育の中では地域社会を形成する、ひとつのまちづくりとなると、この捉え方はもう少し考慮していただきたい。学習を手段として、地域づくりのための学習寄りの捉え方を考えていかなければならない。資料2の考え方は狭義の捉え方になってしまうので、新たに④として、学びを生かしたつながりづくり、地域づくりまちづくりという考えを入れないと、次のステップに進まないのではないか。

公民館は地域の方の学びの拠点であり、地域住民の民度や意識を高めるため、教育

委員会の社会教育における公民館の在り方に結び付けていくことが必要である。社会参加に対して、誰かがやればいいのではと思っている人が多すぎると感じる。危機感を伝えなければならない。

- ◆ フリーアナウンサーではあるが保育士の経験も有している。PTA活動や部活動の役員も経験があり、子育て支援員、子育て訪問員のボランティアもやらせていただき、地域の子育てに悩む母親の悩みを聞く活動もしている。

社会教育センターの事業で司会を務めたことがあり、県内の各地域にはこんなにも地域を愛し、地域おこしをがんばっている人がいるのだということを知って、私にも何かができるのではないかとというパワーをもらったことが、素敵なことだと感じた。自分の子どもからは、進路を考えるにあたって青森から出たい、青森は田舎だからイヤだと言われたのがショックだった。青森にいてもこんないいことがあるし、こんな活躍ができるのだということ、若い世代に知ってほしい。

仕事上、様々な方と出会うことができ、その中からいろいろなことを学ぶことができる。人とのつながりは大事であり、仕事にもつながり自分自身を成長させるものだと思う、今回自分には何ができるかわからないが、いろいろ学ばせていただき、それを伝えることができるようになればと考えている。

- ◆ PTA役員や、青森県農業経営士会での活動経験がある。どの会合でも学ぶことが多くあった。

先日、生涯学習フェアに参加させてもらったが、八戸からはまとまった来場者があり、地域で社会参加活動を支援して盛り上げようと頑張っているのを感じた。

若者が帰ってくるような町や活動があるということは素晴らしいことだと思う。魅力がある町にするためには、どうしたらいいかということ考えたとき、生涯学習というのは大きな力になるのではないかと考えている。

中高年世代の元気な方々と、若い方たちのエネルギーを伝え合い、融合して拡大していくことができるとすれば、いったん地元を離れた若者が地元の良さに気付く、そのためには良さを見せておく必要があり、良さを伝える地域活動あるいは生涯学習というものがあってもいいのではないかと。

- ◆ 高校のPTA会長をしている。子どもが保育園のときからPTA活動に関わり続けている。地域でPTA活動をしていると、小・中学校の支援コーディネーターの依頼、連合町内会事務局の依頼、子ども会育成連絡協議会事務局の依頼、地区青少年健全生活指導協議会事務局の依頼が来るようになり、地域を網羅する活動をさせていただいている。また、市保健推進員、主任児童委員もしている。それぞれの活動には様々な共通点があり、日程さえ調整できれば多くの役割があっても活動することができている。

どの活動に出席しても感じることは、若い世代がいなくて高齢化を意識せざるを得ない。一番動ける世代が動いていないと感じる。PTAも同じように、誰かがやればいい、自分の子どもだけ見ていればいいという感覚が広がってしまっている。現在、コーディネーターとして活動している学校では、PTA活動にも関わって、自分のできる時間に自分のことをしていただくようにしており、一度参加してもらえれば楽しさを感じてもらえる、輪をひろげていけるという活動に、地道に取り組んでいる。

公民館では、それぞれ単体での活動は一生懸命行われているものの、縦のつながり

がないと感じる。例えば、婦人部と老人会がどういうつながりをしているのか、疑問に思うところがある。震災後、地域で事件や事故が起これば対応できるのか、どういう関わりを持っていけるのか、団体のつながりなども薄れている中で、特に心配をしている部分であるし、悔しさを感じている部分でもある。コミュニケーション能力の向上は必要だと思う。

小学校のコーディネーターの仕事で、6年生の子どもが地域に出掛け、高齢者を訪問して触れ合うという事業があり、受け入れ先を探している。高齢者の中には、受入れについては問題ないのだが、周囲との関わりが持てない、隣とも話したことがないという方がいる。一步を踏み出せば楽しいことなのに、そこに入っていけないという話を聞く。地域ではあいさつ運動を実施し、少しずつつながりができてきているものの、まだ足りないと思っている。

県PTA連合会の会長等と会って話す機会があり、活動者は自分の学校や地域が一番だと思っているのだが、同じ県内でも素晴らしい活動がたくさんあるので、もっとお互いを認め合って、協力していくべきだという話を聞き、私も同じ考えを持った。

- ◆ 生涯学習という言葉は、現在の仕事（生涯学習推進員）をするまでは、あまり意識していなかった。子どもを出産し、情報に飢えていた時期があり、仲間を集めて情報誌を作ってみたり、学童保育など子どもの居場所づくりを試してみたりした。意識はしていなかったものの、推進員になってから自分を振り返り、結果として生涯学習に関わっていたのではないかと思う。

普段の仕事としては、生涯学習に関する相談に応じることや、広報誌の作成などを行っている。また、学びの指導者を登録してもらい冊子にまとめて発行している。360人ほどの登録があり、自分にはこんなことができるという紹介が掲載されているものの、これを活用する場がないことが問題点である。市では広報等にも掲載し、登録の募集を行っているが、人数だけがどんどん増えても生かされる場がない。どこかで学んだりサークル活動等に参加したりして、指導までできるようになっているものの、そこまですべて止まってしまっている。活用する場面と人財とのマッチングをしたいと考え、指導できる人がいるのだということを宣伝している。

学校支援コーディネーターとしても活動をしているが、特に小学校では様々な場面（スキー教室や調理実習など）で、地域の人財に手伝いをしてもらって動きが広がってきている。昔の道具を紹介したいという教師の求めに応じて地域に声掛けしたときは、たくさんの道具が集まった。また、直接学校へ持ってきて子どもたちに使い方を教えてくれるような場面もあった。校外活動の際は町の史跡で説明をしてくれたり、本の読み聞かせをしてくれたり、手伝いができる場面は多いのだということがわかった。手伝いをした方に聞いてみると、このような活動ができることや、学校へ呼んでもらえることは知らなかったと話していた。

地域の、あるいは青森のよさを子どもたちに伝えるのは、地域に住む大人の役目である。私は東京から青森へ来たのだが、来た時に青森のよさを語ってくれる人がいなかったことが悲しかった。子どもたちには今もこれからも、青森のよさを語れるようになってほしい。

- ◆ 子ども教室の教育コーディネーター、公民館運営審議委員を務めている。学校支援地域本部事業において、学校支援地域コーディネーターもさせてもらったことがある。学校と地域の連携についても、たくさん勉強させていただいた。数年前には特別支援教育に興味を持ち、スクールサポーターとして直接学校に入って支援活動をした経験

もある。

最近では公民館祭りを運営する際、子ども教室から駄菓子屋を出店することとし、地域の人たちと触れ合うことを考えて声掛けをした。また、県立郷土館にも声を掛けて移動博物館を出してもらったこととした。学校のなかよし会や老人クラブにも声を掛け、様々な人が集まって、つながりづくりになるイベントをやろうと考えた。これに携わって感じたことは、つながるためのきっかけを提供することが大事だということである。

子ども教室等に関わっていると、小学校高学年から中学校の児童生徒の居場所がないと感じる。地域で居場所づくりをすることが必要ではないか。

老人クラブは加入者が減っているし、子ども会も少なくなり、町内会も加入者が減少している。人はいるのだが、まとまりがないという声を聞くことがある。まとまりをつくり出すためには「コミュニティ」がキーワードになるのではないか。地域を動かすためには、つながるためのきっかけを発信できればと思い、そのために公民館の活性化を考えている。

- ◆ 企業組合の形態で、コミュニティカフェを運営している。学ぶことから実践へ、また、実践活動の中から学びを得ることができており、幸せを感じながら活動している。

学んだことを生かせないでいる方へきっかけを、という話が出ているが、きっかけを与えてもらわなくても、自ら動き出す、学んだことを生かすということを考えたり、調べたりできるようになってもらうことも必要なのではないか。

- ◆ スポーツを中心とした活動をしている。ヨガ、チャンバラ、バスケットボール、バレーボールなどの種目がある。あくまで生涯学習というか、人生を豊かにするための手段の一つとしてスポーツを取り入れてもらうような取組をしている。

P T Aや親子レクなどの場面で、保護者の方に週一回以上スポーツに取り組んでいるか伺うと、ほとんど手が上がらず、スポーツは縁遠いものという意識があるように感じる。全国平均から見ても本県のスポーツ実施率は低い。気軽にスポーツに取り組めるようになればいいと思い、活動を始めた。

生涯学習や文化活動は、公民館や生涯学習センターのように、行けば何かの活動ができそうな場が存在するが、スポーツはどこにいったら活動できるかわからない。もっと気軽に取り組める場所を作りたいと思って活動している。

審議会委員になるにあたり、スポーツとどう絡めたらいいかを考えている。先日、50歳代の方が「アップルマラソンに出場して10km走りたい」と言ってきた。ランニングクラブの講師を紹介したところ、走り方やペース配分などの指導を受けることができ、見事完走したということがあった。これは生涯学習の例にあたると思う。自ら目標を持ち、必要なことを学んで、それを生かして行動する、スポーツを通して生涯学習をすることはできるのではないかと感じた。

日本での週一回以上のスポーツ実施率は50%程度。もともと体育からスタートしている関係からか、鍛えるとか勝つということが先に立っている。フィンランドは実施率が90%以上あり、自分のライフスタイルを豊かにし、心の健康を維持するためという考え方が根付いており、実施率の高さにつながっている。

子どものスポーツ環境について、実施率は年々向上している。大人にはウォーキングやランニングの流行があり、大人の実施率につられるようにして向上している。対して、若い世代の実施率は低下している。部活動やスポーツ少年団への加入率も低下

している。少子化でチームが組めない、あるいは小学校では学校部活動ではなくスポーツ少年団への移行が進んでいる。保護者の方が中心となって運営しているが、共働きによって大人がついていてあげられなかったり、学校としても保護者がいない場合は活動させないなど、子どもを参加させたいのにそれができない、スポーツをやるための垣根が高くなっていると感じる。文化部も同様で、合唱なども編成が組めなくなっている。

このことから、地域において地域の方が活動を支えるということが求められているのではないかと。システムを抜本的に見直さなければならない時期にきていると思う。

コミュニティに関して、最近では地域コミュニティからテーマコミュニティへ変化している。興味関心や趣味が同じ人との集まりに車で出かけていくことが多くなっている。団体の情報や活動の様子もITによりたくさん入手できることから、今後はテーマコミュニティが増えていくと予想され、従来型の地域コミュニティとのバランスをどうするかが問題となってくるのではないかと。

- ◇ NPOの顧問をしている。5年ほど前から県のキャリア教育の事業にも参画している。この中で、子どもたちの考えを知る機会があったのだが、怖いことだと思ったのは、自分の住んでいる地域に残りたくないと思える子どもが増えていることで、これは学校や地域を含めた大人が、「守っていかなければならないものは何か」を共有できていないからではないか。それぞれの活動は頑張っているものの、融合がなされていない。

委員のお話を聞き、共通していたのは「地域」というワードを使ってお話しされていたということで、地域、町内会、公民館、子ども会といった観点から、審議の方向を定めるように考えていけばよいのではないかと。

次回の会議では、テーマ設定について審議したいと考えている。

(5) その他

※資料4に基づき、事務局から説明